



研修視察報告書

令和 1年 8月 1日

〔会派名： 清風クラブ〕

代表者氏名	福田 博行 	記録者氏名	坂本 直司 
視察者氏名	福田 博行・森岡 秀之・常俊 朋子・坂本 直司		
視 察 日	令和 1年 7月 24日 (水)		
視 察 先	福井県小浜市		
目 的	料理を教えず、料理で教える幼児の料理教室「キッズキッチン」について研修		

視察概要

1. 背景

- 1) 「無いものねだりからあるもの探しをしよう。元々あるものを磨いて宝物にしよう。」と当時の村上市長の方針 ⇒ 元々あるもの、それが「食」であった
- 2) 市内には食にまつわる民俗行事が 600 あることが分かった
- 3) 2001 年に食のまちづくり条例制定

2. 内容

- 1) キッズキッチンは、料理を手段とした子どもの教育
- 2) 食を通じた体験で、自己肯定感と命の大切さを学ぶ
- 3) 市内の保育園・幼稚園の年長児が全員参加＝義務食育、費用は市が全額負担
- 4) 4歳児が魚をさばく、手の上で豆腐を切る⇒味覚の発達期を逃さない
- 5) 保護者は手出し口出しせず観覧席で見守る
- 6) 2003 年開始以来 1 万人の実績で怪我無し（絶対のお約束をして包丁を渡す）
- 7) 運営は、食のまちづくり課（9名）とキッズサポーターによる
- 8) 実施場所は、食文化館内のキッチンスタジオ
- 9) NHK教育テレビ「すくすく子育て」「きょうの料理」「福祉ネットワーク」など国内外のメディアにおいて特集番組として放映
- 10) 「キッズキッチン小浜市」で検索し YouTube で動画視聴可



3. 参考となる点

- 1) これからのまちづくりには、小浜市の「食」のように何かテーマが必要ではないか
- 2) 条例を制定し、「食のまちづくり課」という組織を作り、「食文化館」という施設を作り、運営予算を確保してまちづくりを進めている
- 3) 「まちづくりは人材育成」としてボランティアの育成に積極的に取り組んでいる



※ 小浜市の人口：29,271人 (R1/6/1)



研修視察報告書

令和 1 年 8 月 1 日

〔会派名： 清風クラブ〕

代表者氏名	福田 博行 	記録者氏名	坂本 直司 
視察者氏名	福田 博行・森岡 秀之・常俊 朋子・坂本 直司		
視 察 日	令和 1 年 7 月 2 5 日 (木)		
視 察 先	福井県大野市		
目 的	水への恩返し事業について研修		

視察概要

1. 背景

- 1) 約 440 年前に出来た城下町で、その頃既に上下水道が整備されていた地下水が豊富な町
- 2) 近年人口減少が続くが、「大野の良さ」に市民が気づいていないのが課題
- 3) 昔から地下水が豊富なため、あたりまえ過ぎて市民が水のありがたさに気づかない
- 4) 定住人口増のため「ブランドの確立」と「市民の自信と誇りの醸成」を目指す
- 5) H25 年「越前大野ブランド戦略」策定、水こそが大野が最も誇るべきもの

2. 内容

- 1) 水に生かされている大野市が、伝統である「結」の心に基づき、水のありがたさを「水への恩返し」として様々な形で世界中と分かち合うことを通じ、地球の将来や人々の幸せに貢献していくことを目指すプロジェクト
- 2) アジアで最も水環境が厳しい東ティモールの支援を通じて、水が出るというあたりまえのことがこれほど人を幸せにするのだということを市民が再認識し、自信と誇りの醸成に繋がった。困っているのは大野市、自分が幸せになるためには誰かを幸せにすること
- 3) 具体的には、市民からの募金や寄付で集まった 3,000 万円で、ユニセフを通じ現地に 3,800 人分の水道システムを整備。それにより、子どもたちは水汲みから解放され学校へ行けるようになった。
- 4) 水の本を作成し、全国 40,000 校に贈呈。さらには講師を派遣して水に関する出前授業を全国の学校で実施。＝「水のがっこう」
- 5) 市内の地下水位を市民が 365 日毎日計測
- 6) 世界水フォーラムへの参加やフランス ヴォルヴィック市との交流
- 7) 「大野市の挑戦」で検索し YouTube で動画視聴可



3. 参考となる点

- 1) これからのまちづくりには、小浜市が「食」、大野市が「水」のように何かテーマが必要ではないか
- 2) 市民の意識醸成のためには外部からの評価が効果的である
- 3) 費用はかかるものの「電通」にグラフィックデザインを依頼しているとのことで、プロモーションが洗練されている



※ 大野市の人口：33,249 人 (H31/4/1)



研修視察報告書

令和 1年 8月 1日

〔会派名： 清風クラブ〕

代表者氏名	福田 博行 	記録者氏名	坂本 直司 
視察者氏名	福田 博行・森岡 秀之・常俊 朋子・坂本 直司		
視 察 日	令和 1年 7月 26日 (金)		
視 察 先	福井県勝山市		
目 的	わがまち魅力発散事業について研修		

視察概要

1. 背景

- 1) 2000年開催の恐竜エキスポ(6か月で80万人来訪)以後まちづくりの機運が高まる
- 2) 周辺の集客施設と旧市街地がリンクしていない。点から線へ、線から面へのまちづくりが求められる
- 3) 古いものを伝承していきたいとの声
- 4) 2000年12月に山岸市長が「ふるさとルネッサンス」を提唱



2. 内容

- 1) 市民自らが地域の歴史・文化遺産、自然遺産、産業遺産を再発見して保存、継承する運動を通じて活力と特色ある地域づくりを勝山市エコミュージアムとして推進
- 2) 具体的には10地区のまちづくり団体への活動費助成(「わがまち助成事業」100万円/年/1か所)で、H14からH31まで3か年ごとの事業を6回継続してきた。最初が「わがまちげんき発掘事業」、6回目が「わがまち魅力発散事業」、18年間の事業数は382件
- 3) 助成金獲得のために公開審査会を開催し、事業終了後には公開報告会を実施
- 4) 2005年からは一律定額補助型から企画提案型事業へ
- 5) 事業例は、「荒土の炭」炭焼きと販売、越前禅定道修験者マラソン、「はやし込み」復活事業、えごまの栽培とえごま油の販売、鯖の熟れ鮨し、など
- 6) 2015年からはエコミュージアムをジオパークという呼称に変更。理念と考え方は同じ

3. 参考となる点

- 1) わがまち助成事業は地縁団体だけでなく、それ以外の団体も対象にしている
- 2) 公開審査会を開催し、申請団体にプレゼンを課している
- 3) チャレンジ部門として若者や女性枠を作ったところ、中学生や女性グループから申請があったとのこと

※ 勝山市の人口：23,092人 (R1/6/30)

